

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< 98 2012.10.7 連絡先 402-1622 >

9月議会が終わりました

9月10日から始まった議会が、28日に終了しました。

提案された議案は市長専決処分1件、補正予算等の議案は22件、請願2件、諮問4件、議員発議4件です。共産党議員団は、議案5件と発議1件に反対しました。理由は以下の通りです。

・補正予算案では市民生活に必要な議案、また災害対策予算などには賛成しましたが、小学校給食民間委託事業に関する補正予算については、予算削減を目的に民間委託を進めることに問題があることから反対です。

・市分譲事業であるスカイタウンつつじヶ丘に建設される20面ものテニスコートの工事請負契約は、事業そのものが土地造成特別会計の赤字救済のためのものであり、多額の金額を支出することは市民の納得を得られません。

・青岸エネルギーセンターの基幹改良工事に関わる63億円余の契約が、予定価格から見ると99.98%と極めて高率の随意契約となっています。金額の妥当性に疑問が残ります。

・「尖閣諸島の実効支配推進についての意見書（案）」には、「尖閣列島の実効支配を推進する」との記述があり、この内容では日中間の緊張をさらに高め、新たな障害を持ち込むことになりかねません。



みち子のひとりごと 大門川に...

「ここのとり」がいました。市内・粟に飛んできていたとは聞いていましたが、2日午後1時半ごろ、大門川まで遊びに来ました。先客のあおさぎくんは、見慣れないお客様にびっくりするよううに、首を思い切り伸ばして警戒中。「ここのとり」は我関せずと、悠々とあるいて近づきます。なにか、威嚇のようなものさえ感じました。

「ここのとり」がいました。市内・粟に飛んできていたとは聞いていましたが、2日午後1時半ごろ、大門川まで遊びに来ました。先客のあおさぎくんは、見慣れないお客様にびっくりするよううに、首を思い切り伸ばして警戒中。「ここのとり」は我関せずと、悠々とあるいて近づきます。なにか、威嚇のようなものさえ感じました。

姫田高宏議員の一般質問

障害者福祉充実せひ

姫田議員は、障害者の外出に大切なバス利用日、福祉タクシー券を増やすこと、視覚障害者世帯に対する市からの点字通知の充実、聴覚障害者が講演を聞く場合などに効果を発揮する簡易型磁気ループの市による貸し出しなどを提案。また、片足を切断して症状が重くなったのに障害の等級を軽い方に下げられた人に対する等級の是正を要求しました。

福祉局長は、バス利用日や福祉タクシー券の増加について、「考えていない」と答弁。点字通知についても現状維持。簡易型磁気ループは「調査し検討したい」としました。不合理な等級変更については国基準を盾に是正を拒否しました。

姫田議員は、地元中小建設業者に経済効果がある住宅リフォーム助成制度の創設を求めました。まちづくり局長は、既存の制度を並べ「各業界により住宅関連の需要を喚起するものと考ええる」としました。



くにしげ秀明です

よろしく

おねがいします



日本社会から国の政治はなくなりました。馬鹿なことを言うな、と言われる方がいらつしやると思います。本来、政治は、

ものだと思いません。しかし、原発再稼働、消費税の増税可決、アメリカ軍用機オスプレイの普天間基地への配備と、

国民が平穩に安心して生活するため

ものだと思いません。

しかし、原発再稼働、

消費税の増税可決、アメ

リカ軍用機オスプレイの

普天間基地への配備と、

民意無視が連続していま

す。日本国民の命と安全

生活を軽視する行為は、

もはや政治とはいえない

と感じます。

来る総選挙は、国民の

手で政治をつくるたたか

いになります。

いになります。

日本の巨大メディアを考える

志位和夫

たとえば、「朝日」は、敗戦直後の1945年11月2日付の紙面で、「宣言 国民と共に立たん」なる文書を発表して、経営陣の「辞職」と国民への「謝罪」をおこなっています。しかし、「辞職」したはずの村山長拳社長以下の重役らは、数年後に復帰しています。「読売」は、1945年12月、正力松太郎社長がA級戦犯容疑者として逮捕されますが、2年後には釈放され、日本テレビの社長、「読売」の社主として、新聞メディア、放送メディアの双方に「君臨」していきます。

ドイツと比較すると、日本の新聞の無反省ぶりは対照的です。ナチス・ドイツの侵略戦争に協力したドイツのメディアは、米英仏ソの連合軍によって、いっさい存続させない方針がとられ、それらのメディアは全部つぶされたと言います。そして厳重な資格審査のもとに、戦争責任で汚れていない関係者に、戦後ドイツのメディアの創始、復活をゆだねるということをやったといわれています（『マスコミの歴史責任と未来責任』、日本ジャーナリスト会議編、1995年）。